

ISSN 2189-7689

Osakafu Rigaku Ryouhou Gakujutsu Taikai Gakkaishi

大阪府理学療法学会誌 / 大阪府理学療法士会生涯学習センター編
Vol.32

第 32 回 大阪府理学療法学会 2020

大会テーマ「生涯学習」ーキャリアラダーとゴールー

会 期：2020 年 9 月 13 日（日）

会 場：ウェブ（オンライン）開催

主 催：一般社団法人 大阪府理学療法士会生涯学習センター
公益社団法人 大阪府理学療法士会

後 援：大阪府・大阪市

INDEX

大会長挨拶	2
参加者へのご案内	3
発表者へのご案内	9
座長へのお知らせ	14
日 程 表	18
大会プログラム	22
抄 録	
特 別 講 演	40
教 育 講 演	42
シンポジウム1	44
シンポジウム2	62
症例報告(口述)	68
一般演題(ポスター)	76
卒業研究演題(ポスター)	140
査読者推薦演題(ポスター)	144
協賛企業一覧	153
運営組織・委員一覧	154

大会長挨拶

第32回大阪府理学療法学会大会

大会長 中川 法一

増原クリニック、株式会社フルーシオン



Concept

疾患別（臓器別）リハビリテーションが専門分科して発展する中で、私たちは本来のリハビリテーションの役割である様々な障がいや疾病を抱えながら生きていく人を支援しているのだからと、まさに「病を見て人を見ず」と揶揄された過ちを繰り返す事にならないのかという批判的視点から企画を始めました。理学療法士の資格を取得したら、専門領域に進むのではなく、まずは理学療法士に求められる全般的な能力を獲得し底上げする、いわゆるジェネラリストとしての素地を涵養することが重要不可欠だと考えています。従いまして、理学療法士の登竜門とされる当学会の使命は、若手会員の理学療法能力の底上げを目的とした研鑽の場であるべきだと考え企画をしました。

Theme

「生涯学習」ーキャリアラダーとゴールー

Overview

ジェネラリストとしての素地の涵養を命題にして、多様な特性を持つ施設の会員がディスカッションできる場の提供を考えました。そこで「病期」という点に着目し急性期、回復期、生活期に加え災害時での理学療法士のあり方を考えるシンポジウムを核に学会を構成いたしました。一般演題にもシンポジウムと連動した病期別の症例検討セッションを企画枠として設けています。また、これらを府士会として具現化する意味で教育講演として大阪府理学療法士会の熊崎大輔会長による「大阪府理学療法士会における次世代のための人材育成」を予定しています。

特別講演には、大阪大学大学院教授の仲野徹先生（生命機能研究科 時空生物学、医学系研究科 病理学）をお招きして、細胞というミクロから人の生活というマクロに繋がる視点や、再生医療とリハビリテーションに関わるホットな話題も交えて私たち理学療法士の歩むべき道標にとって示唆に富んだお話をします。

一般演題は例年通りに、口述とポスターのセッションを準備しており、学生の演題発表も引き続き企画しております。今回は疾患別から病期別という切り口でのセッション構成を試行しておりますので、日常的に研究活動が行いにくい環境にある方々も気後れすることなく、臨床での疑問や経験を基に議論に参加いただけたと考えておりますので、多くの方々の活発なご討議を期待しています。

参加者へのご案内

【1】参加者へのお知らせ

オンライン開催について

第32回大阪府理学療法学会は9月13日にオンラインにて開催となりました。それに伴い、当初予定していた発表形式（一般口述、ポスター）の内容が変更となりました。症例報告（O-1～O-4）は9月13日当日にZOOMアプリを使用したLIVEでの発表、症例・研究報告（P-1～P-26、PR1～PR3）、卒業研究報告（PG-27）はポスターのHP掲示とコメントでの質疑応答となります。症例報告は当日LIVE形式となりますが、後日録画配信を視聴することも可能です。

オンライン学会参加の手順を含めた詳細は以下の通りです。

役員一丸となって現在オンライン化の準備を進めておりますので、参加者の皆様も是非積極的に参加していただき、たくさんの情報交換をしていただきますよう、宜しくお願い致します。

※事前にアカウント登録の必要がありますので、9月1日～13日までの間に特設サイトにてアカウント登録をお済ませください。詳細は以下をご参照ください。

参加に際しての注意事項

第32回大阪府理学療法学会の発表演題（ポスター・スライド）や講演に関して、ビデオ撮影・録音・写真撮影（スクリーンショットを含む）は固く禁じます。

【2】オンライン学会特設サイトへの入り方

- ① 第32回大阪府理学療法学会のホームページへログインしてください。

<http://o-pt32.umin.jp/>

- ② オンライン学会特設サイトをクリック。



③ アカウント登録を行う。



④ メールアドレス、パスワード、氏名、所属を記入してください。

性別、誕生年、プロフィール画像は任意です。

(メールアドレスアドレスは携帯、パソコンいずれのものも可能です)

[Back](#)

アカウント登録 / 基本情報

*は必須項目です。登録情報は後で変更できます。

メールアドレス*	
パスワード*	半角英数字、8文字以上を指定してください。
パスワード(確認)*	確認のため再入力してください。
氏名*	姓と名の間にスペースを入れてください。日本語、英語の氏名をどちらか必ず入力してください。 (日本語表示) (英語表示)
所属	希望所属されている方は、代表的な所属をひとつ記入してください。 (日本語表示) (英語表示)
性別	☐ 男性 ☐ 女性
誕生年	1980 ▼
プロフィール画像	ファイルを選択 選択されていません ここで指定した画像があなたのプロフィールに表示されます。

[利用規約](#)および[データの使用に関するポリシー](#)をよくお読みいただき、登録してください。アカウント登録後に登録内容の変更や削除も可能です。

利用規約とポリシーに同意して登録

⑤ 2回目以降はメールアドレスとパスワードでログイン可能です。

⑥ 当日はログインして学会をお楽しみください。

【2】口述発表(症例報告)(LIVE形式)の聴講の仕方

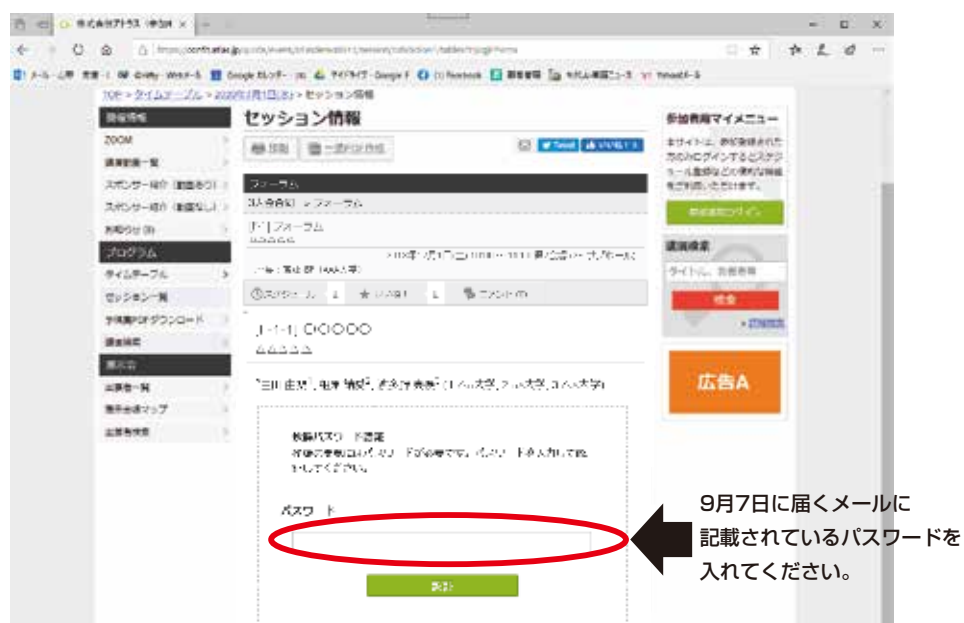
(1) 聴講の準備

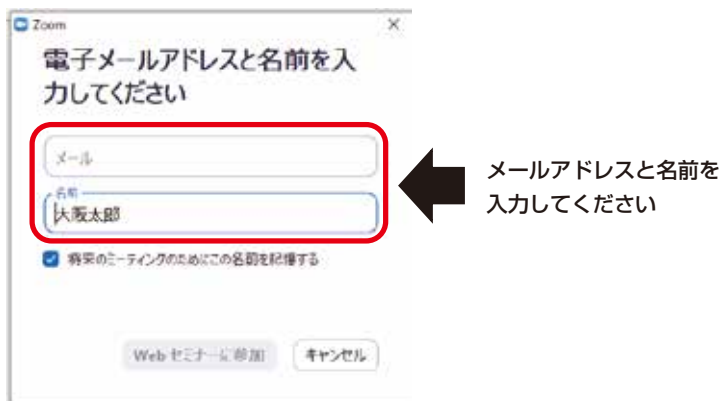
1. 必要な備品について

- ・インターネット環境や当日使用するコンピュータは各自ご用意の程お願い致します。
- ・イヤホンマイク等をご用意いただくほうが音声聞き取りやすいと思います。
(iPhone等に付属しているような簡易のもので大丈夫です。)

(2) 当日の聴講について

1. LIVE 発表は ZOOM というアプリを用いて行います。
2. 各 LIVE 会場へはセッション開始10分前から入室可能です(**ルームへの入室は100名までです**)ので、入室が出来なかった方は後日録画配信をご視聴ください。





※ Zoom にログインせずに入室すると、上記画面が出てくるため、メールアドレスと名前（例：大阪太郎）を入力してください。

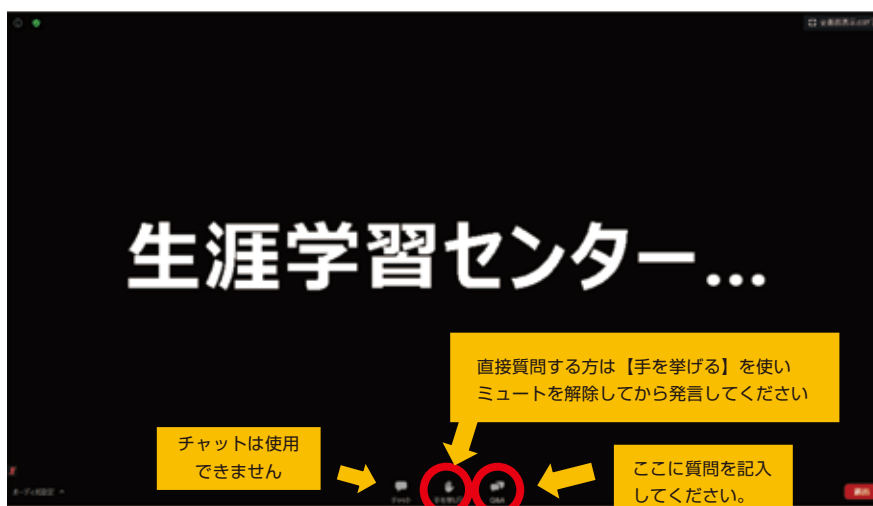


※上記準備ができれば、発表が始まるまで待機してください。

3. ルームへの入室時は、画面オフ、ミュートの状態になっております。
4. 質問は、①Q&A に記入して、座長に代読してもらう、②手を挙げる機能を使用し、座長に指名されたらホストよりミュート解除の依頼があるので、ミュートを外して発言する、のいずれかで行ってください。

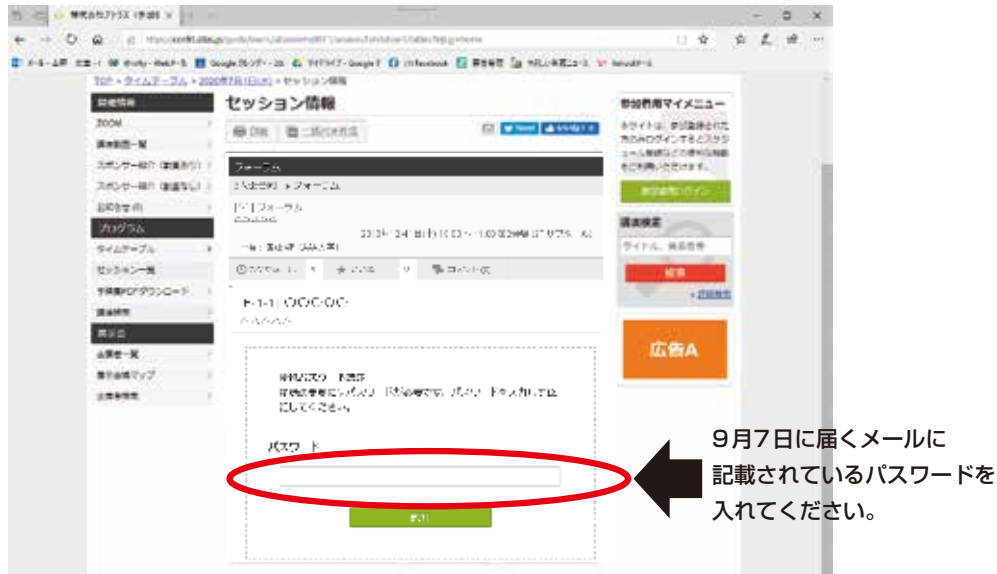
※手を挙げる機能の詳細は右記 URL からご確認ください。

<https://zoom-kaigi.com/zoom-kyoshu/>



【3】ポスター発表の閲覧の仕方

1. ポスターは9月13日の開会式終了後 HP の各セッションにてアップされます。



2. 当日発表はなく、HP 上でのポスター公開およびコメントやり取りのみとしますので、ポスターに対して質問や議論をご希望の方はコメント欄へ投稿してください。9月13日16時から18時の間に発表者から返事が入ります。
3. いいね！機能もありますので、興味深い内容があれば、積極的にいいね！もお願いします。
4. ポスターデータに関してはダウンロードできません（スクリーンショットでの保存もご遠慮ください）。
5. 公開期間は9月13日から9月30日までとなります。

発表者へのご案内

【1】全演者へのお知らせ

オンラインでの発表について

第32回大阪府理学療法学術大会は9月13日にオンラインにて開催となりました。それに伴い、当初予定していた発表形式（一般口述、ポスター）の内容が変更となりました。症例報告（セッション名 O-1～O-4）は9月13日当日に ZOOM アプリを使用した LIVE での発表、症例・研究報告（P-1～P-26、PR1～PR3）、卒業研究報告（PG-27）はポスターの HP 掲示とコメントでの質疑応答となります（**LIVE 発表の方は9月1日～9月12日の間に座長、大会スタッフと事前接続確認を行います。日時は後日担当スタッフから調整連絡があります。**）。

オンライン学会発表の手順を含めた詳細は以下の通りです。

役員一丸となって現在オンライン化の準備を進めておりますので、演者の皆様においてはご自身の成果公表を全うしていただきますよう、宜しくお願い致します。

※学会参加に伴い、特設サイトにおいてアカウント登録を行う必要がありますので、「参加者へのお知らせ」をお読みいただき、9月1日～9月13日の間にアカウント登録をお済ませください。

利益相反（COI）について

発表時に利益相反についての情報開示をお願いします。

LIVE 発表の場合は、最初に利益相反自己申告に関するスライドを加えてください。

ポスター発表の場合は、ポスター内に開示ください。

サンプルフォーマットを用意しておりますので、そちらを参考にしてください。

【2】口述発表（症例報告）（LIVE 形式）の方

（1）発表の準備について

1. スライド作成について

- サンプルフォーマットをご確認ください（利益相反の記載について）。
- 枚数制限はありませんが、発表時間に収まるように注意してください。
- **発表時間は7分以内、質疑応答は3分以内とします。**
- **操作確認やスライド投影確認を含め、事前に ZOOM アプリを用いて接続確認を行いますので、8月30日までに作成してください（日時は担当スタッフより連絡があります）。**
- オンラインでの発表は著作権法上の公衆送信にあたると考えられますので、画面共有するスライドにおけるコンテンツは著作権上の問題のないものに限るようご注意ください。
- スライドの提出は必要ありませんが、オンラインという特性上、内容に不適切な文言や画像がないかだけ確認させていただきます。

2. 当日使用するコンピュータ、ネット環境は各自ご用意の程お願い致します。

3. 音声が届かないように、可能な限りイヤホンマイク等をご用意いただきますよう宜しくお願い致します（iPhone 等に付属しているような簡易のもので大丈夫です）。

4. 発表内容が抄録と相違ないよう注意してください。

5. 発表の録画については、管理者である大阪学会準備委員が行いますので、ご了承ください。

第32回大阪理学療法学術大会 WEB（オンライン）開催 タイムテーブル

2020年9月13日（日）

時間	コンテンツ	
9:00～9:30 (Live配信)	開会式	
9:40～10:40 (Live配信)	口述発表：症例報告 セッション1 急性期 (O-1-1～ O-1-4) 座長：山科 吉弘 鎌田 将星 セッション2 回復期（運動器） (O-2-1～ O-2-4) 座長：三浦 なみ香 河西 謙吾	
10:50～11:50 (録画配信)	教育講演 大阪府理学療法士会における次世代のための人材育成 講師：熊崎 大輔	
12:00～12:45	昼休み/企業企画特別講演	ポスター演題 公開
12:55～13:55 (Live配信)	口述発表：症例報告 セッション3 回復期（脳損傷） (O-3-1～ O-3-4) 座長：松田 淳子 山本 幸夫 セッション4 生活期 (O-4-1～ O-4-4) 座長：大東 康宏 久米 佳行	(P-1-1～P-26-4) (PG-27-1～PG-27-7) (PR1-28-1～PR3-30-5)
14:00～15:00 (録画配信)	特別講演 細胞の作られ方とその利用 講師：仲野 徹	
15:10～15:30 (Live配信)	次期大会長挨拶 優秀演題表彰式 閉会式	
15:10～16:40 (録画配信)	シンポジウム1 歩行へのアプローチと目標設定 1) 急性期 座長：田端 慶一 2) 回復期 座長：奥埜 博之 3) 生活期 座長：遠近 高明 シンポジウム2 災害時 リハビリテーション 座長：尾谷 寛隆	
16:40～17:10 (Live配信)	WEB学会企画 シンポジウム座長が語る:座談会	

録画配信の講演ならびに全てのシンポジウムは、9月30日(水)まで聴講が可能です。
(ただし、新人教育プログラムのポイント付与は当日聴講のみとなります)

大会プログラム

特 別 講 演

教 育 講 演

シンポジウム1

シンポジウム2

企業企画特別講演

症例報告(口述)

一般演題(ポスター)

卒業研究演題(ポスター)

査読者推薦演題(ポスター)

特別講演・教育講演・シンポジウム

10:50～11:50 教育講演

(録画配信)

大阪府理学療法士会における次世代のための人材育成

熊崎 大輔 公益社団法人 大阪府理学療法士会 会長
関西医療学園専門学校 教務主任

14:00～15:00 特別講演

(録画配信)

細胞の作られ方とその利用

仲野 徹 大阪大学大学院 医学系研究科・病理学 教授
生命機能研究科・時空生物学 教授

15:10～16:40 シンポジウム1 [歩行へのアプローチと目標設定]

(録画配信)

座長：田箆 慶一(増原クリニック)

1) 急性期

下肢運動器疾患における歩行アプローチ

加藤 良一 大阪市立大学医学部附属病院 リハビリテーション科

歩行へのアプローチと目標設定 ～急性期セッション～ 脳卒中

太田 幸子 国立循環器病研究センター

内部障害患者の歩行へのアプローチと目標設定

松木 良介 関西電力病院 リハビリテーション科

2) 回復期

座長：奥埜 博之(摂南総合病院)

歩行へのアプローチと目標設定(回復期)

大泉 貴志 牧リハビリテーション病院 リハビリテーション科 科長

歩行へのアプローチと目標設定(回復期)

松村 彩子 独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO) 星ヶ丘医療センター
リハビリテーション部 主任

歩行へのアプローチと目標設定

河西 由喜 医療法人協和会 第二協立病院(協和会病院と兼務) 理学療法科主任

座長：遠近 高明（箕面市健康福祉部 保健スポーツ課高齢福祉室）

3) 生活期

生活期に求められる視点

山崎 貴峰 株式会社ワイズライン 代表取締役
やわらリハビリ訪問看護ステーション 所長
やわらキッズ（重症心身障がい児デイサービス）所長

急性期～回復期～生活期の一連の流れの中での予後予測とゴール設定

藤堂 恵美子 医療法人マックシール異病院リハビリテーションセンター マネージャー

生活期から歩行を考える

木下 篤 社会医療法人さくら会 さくら会病院 リハビリテーション科 副主任

15:10～16:40 **シンポジウム2** [災害時リハビリテーション]

（録画配信）

座長：尾谷 寛隆（大阪刀根山医療センター）

市区町村士会の特色を生かして

森實 徹 株式会社フルーシオン 地域支援事業部副部長

公益社団法人大阪府理学療法士会の活動経緯と組織体制 人材の育成と確保

松岡 雅一 株式会社 リハステージ 訪問看護ステーション リハステージ

理学療法士による災害支援活動について

○森川 明¹⁾、富岡 正雄²⁾、佐浦 隆一²⁾

1) 医療法人東和会 第二東和会病院リハビリテーション部

2) 大阪医科大学総合医学講座 リハビリテーション医学教室

12:00～12:45 **企業企画特別講演**

（録画配信）

川村義肢株式会社

株式会社 gene

症例報告演題(口述)

9:40～10:40 **口述 セッション1** [**O-1 急性期**]

(Live 配信)

座長：山科 吉弘(藍野大学)
鎌田 将星(国立循環器病研究センター)

- O-1-1** 多職種の介入により肺移植登録に至った特発性胸膜肺実質線維弾性症の1症例
水澤 裕貴 近畿大学病院 リハビリテーション部
- O-1-2** 間質性肺炎と骨髄異形成症候群を併発した一症例
三好 祐之 一般財団法人 住友病院 リハビリテーション科
- O-1-3** 心肺停止蘇生後の患者・患者家族に対し、
BLS 指導・再発予防指導を行った1症例
中野 裕葵 医療法人徳洲会 岸和田徳洲会病院 リハビリテーション科
- O-1-4** 右橋出血により重度運動失調を呈した一症例
嶋貫 翔太 春秋会 城山病院

9:40～10:40 **口述 セッション2** [**O-2 回復期(運動器)**]

(Live 配信)

座長：三浦 なみ香(増原クリニック)
河西 謙吾(加納総合病院)

- O-2-1** 歩行時の自覚的脚長差と殿部痛が軽減した人工股関節置換術後の症例
三宅 賢市 大阪リハビリテーション病院
- O-2-2** 人工骨頭置換術後に跛行を呈した症例の介入経験
鹿間 萌 摂南総合病院
- O-2-3** 多数回の腰椎固定術後の大腿前面痛に腸腰筋の反復収縮が
効果的であった一症例
原田 友香里 りんくう永山病院 リハビリテーション課
- O-2-4** UKA 術後に出現した膝前面部痛に対する一考察：
超音波画像診断装置による評価に基づいて
大西 悠斗 社会福祉法人 大阪暁明館 大阪暁明館病院 リハビリテーション科

座長：松田 淳子(大阪行岡医療大学)
山本 幸夫(大阪刀根山医療センター)

- O-3-1** 反応的姿勢制御の低下が歩行自立を阻害した脳卒中患者一症例
清水 凱斗 JCHO 星ヶ丘医療センター リハビリテーション部
- O-3-2** Pusher 現象に対し、床上動作にて非麻痺側への荷重を促し、歩行能力向上に至った一症例
外崎 翔太 愛仁会リハビリテーション病院
- O-3-3** 脳卒中片麻痺の痙性歩行に対して表面筋電図を用いて評価を行った一症例
鋤田 瑛 地方独立行政法人 市立吹田市民病院
- O-3-4** 屋外環境にて著明な歩行不安定性を認めた橋梗塞例の考察
内海 賢之 医療法人社団和風会 千里リハビリテーション病院

座長：大東 康広(わかくさ老人訪問看護ステーション)
久米 佳行(地域ケアステーション八千代)

- O-4-1** 中枢性脳卒中後疼痛症例への運動イメージを用いた介入—BAB デザインによる検討—
松田 総一郎 摂南総合病院 認知神経リハビリテーションセンター
- O-4-2** 頑固な疼痛の対処に苦渋した右視床出血症例
村田 宏之 千里リハビリテーション病院
- O-4-3** 踵離地から足尖離地の前脛骨筋の働きに着目し介入したパーキンソン病患者の一症例
福本 悠樹 関西医療大学 保健医療学部 理学療法学科
- O-4-4** 施設入所中の要介護高齢者に対する訪問リハビリテーション開始前からの在宅復帰支援
村田 一斗 株式会社フルーシオン リハビリ本舗事業部

症例・研究報告演題（ポスター）

ポスター 〔 P-1 脳損傷（歩行1） 〕

座長：松本 浩希（市立吹田市民病院）

- P-1-1** 急性期脳卒中患者における自然回復と理学療法介入の効果判定の検討
— 症例報告 —
藤田 匠 弘善会 矢木脳神経外科病院 リハビリテーション科
- P-1-2** 理学療法により体幹・下肢機能の改善を認めた9歳男児の重度右片麻痺症例
則政 里沙 北野病院
- P-1-3** 右被殻、放線冠梗塞により左片麻痺を呈した一症例
— 屋外歩行獲得に向けた検討 —
橋本 悠里 森之宮病院
- P-1-4** 股関節伸展角度に着目し歩行練習を実施した左被殻出血患者の一症例
石川 裕 関西電力病院

ポスター 〔 P-2 脳損傷（歩行2） 〕

座長：高尾 耕平（森整形外科）

- P-2-1** 麻痺側下肢機能の改善により歩行自立に至った慢性期脳卒中患者への一考察
重本 淳 医療法人弘善会 矢木脳神経外科病院 リハビリテーション科
- P-2-2** 左内包後脚梗塞により右片麻痺、感覚障害を呈した一症例
— 伝い歩き獲得に向けた検討 —
的井 裕佳子 森之宮病院
- P-2-3** 麻痺側遊脚期に転倒傾向を認めた右ラクナ梗塞患者の理学療法
山田 和真 医療法人一祐会 藤本病院

ポスター 〔 P-3 脳損傷（下肢装具） 〕

座長：有末 伊織（関西福祉科学大学）

- P-3-1** 脳画像所見から股関節機能に着目しカットダウン時期を遅らせた橋梗塞の一例
渡辺 広希 関西電力病院 リハビリテーション部
- P-3-2** KAFO 歩行練習が起き上がり動作向上に繋がった重度運動麻痺を呈する
両側橋梗塞の一例
畑中 将希 関西電力病院 リハビリテーション部

P-3-3 KAFO 歩行にて FB を活用し麻痺側 IC ～ LR の膝関節不安定性改善を図った一症例

西村 祐輝 社会医療法人愛仁会 愛仁会リハビリテーション病院

P-3-4 重度片麻痺患者に対して皮質網様体路の可塑性に着目し KAFO での歩行再建を図った一症例

近藤 慎之介 医療法人康生会 泉佐野優人会病院

P-3-5 発症後約3年が経過した橋出血患者に対する理学療法の経験

富本 将伍 千里リハビリテーション病院

ポスター [P-4 脳損傷（運動失調）]

座長：森井 裕太（関西医科大学くずは病院）

P-4-1 左橋・小脳梗塞後、心大血管手術までに歩行獲得を目指した症例：右立脚中期に着目して

北 彩也香 北野病院

P-4-2 方向転換動作評価におけるふらつきの回数の測定と、動作パターンの分析を行った一症例

大下 翔吾 医療法人協和会 千里中央病院

P-4-3 重度小脳・脳幹損傷患者の姿勢制御獲得に対する取り組み

後藤 諭美 千里リハビリテーション病院

P-4-4 ウェルニッケ・コルサコフ症候群を呈し、小脳失調を合併した患者1症例の臨床経過

新井川 明理 岸和田リハビリテーション病院

ポスター [P-5 脳損傷（姿勢・バランス）]

座長：脇 正徳（関西医科大学香里病院）

P-5-1 プッシャー現象を呈し座位・立位バランス低下、歩行障害を認めた患者に対する症例報告

西澤 礼 森之宮病院 リハビリテーション部 理学療法科

P-5-2 重度の片麻痺とプッシング現象により座位の安全性が低下した超高齢者の一症例

丸山 力哉 りんくう永山病院

P-5-3 慢性期脳卒中者への自費リハビリの可能性と今後の展望について

三上 翔太 弘善会グループ 脳梗塞リハビリステーション

P-5-4 麻痺側と非麻痺側下肢への理学療法により歩行の安定性が向上した左片麻痺患者の一症例

土山 隼一 関西医療大学附属診療所

ポスター [**P-6** 脳損傷（高次脳機能・認知機能）]

座長：下代 真也（葛城病院）

P-6-1 慢性期脳卒中患者への自己運動観察療法がバランス能力向上に有効であった一症例

小松 健矢 泉佐野優人会病院 リハビリテーション科

P-6-2 認知機能が低下した片麻痺患者に対して運動学習の方法に着目して介入した症例

井上 雄斗 みどりヶ丘病院

P-6-3 退院後の買い物動作獲得を目指した一症例
～療法士間での連携～

田和 彩葉 社会医療法人祐生会 みどりヶ丘病院

P-6-4 注意障害により自立度拡大に難渋した前頭葉皮質下出血患者に対する理学療法

生田 理子 千里リハビリテーション病院

P-6-5 左脳梗塞後に右側障害物への頻回な衝突を繰り返した一症例

磯江 健太 摂南総合病院

ポスター [**P-7** 脳損傷（上肢機能・シーティング・移乗など）]

座長：大崎 康寛（みどりヶ丘病院）

P-7-1 脳卒中上肢麻痺に対し多職種実施型の CI 療法に取り組んだ一症例

徳田 和宏 阪和記念病院

P-7-2 課題設定に基づき、麻痺側上肢の巧緻動作に介入したことで復職に至った症例報告

西尾 政春 森之宮病院

P-7-3 希望施設への転院に向けて車いすシーティングを行った脳損傷の一症例

松本 拓也 JCHO 星ヶ丘医療センター リハビリテーション部

P-7-4 機械的血栓回収療法術後、座位保持の獲得を目標とした急性期心原性脳塞栓症の一症例

伊田 亜希良 守口生野記念病院 リハビリテーション科

P-7-5 肥満を呈した脳血管患者に対し減量目的の有酸素運動を行い
ADL 改善に至った一症例

佐川 裕哉 愛仁会リハビリテーション病院

P-7-6 脳幹梗塞により四肢麻痺を呈した症例
— 移乗の介助量軽減を目指して —

川田 快 森之宮病院

ポスター [**P-8** 脳損傷 (研究報告)]

座長：柳野 浩司 (関西福祉科学大学)

P-8-1 回復期軽症脳卒中患者の歩数と筋肉量および栄養状態の関連性

北田 凱土 市立吹田市民病院

P-8-2 脳血管障害片麻痺者の姿勢変化時の側腹筋厚の変化

牧野 拓海 社会医療法人大道会 森之宮病院 リハビリテーション部

P-8-3 脳卒中患者における内腹斜筋の筋厚が歩行自立度へ及ぼす影響

中嶋 士 社会福祉法人 大阪暁明館 大阪暁明館病院 リハビリテーション科

P-8-4 脳卒中患者の歩行自立に影響する因子と自立予測の検討

金 起徹 八尾はあとふる病院

P-8-5 経頭蓋超音波検査を用いて起立負荷時の脳循環動態を測定した
急性期 SAH 患者一例

山本 洋司 関西電力病院 リハビリテーション部

P-8-6 脳血管疾患患者の早期離床阻害要因の検討

和田 葉都生 公益財団法人唐澤記念会 大阪脳神経外科病院

P-8-7 回復期リハビリテーション病棟入院患者 1 例による意欲に関する
要因の質的分析

桑原 裕也 岸和田リハビリテーション病院 リハビリテーション部

ポスター [**P-9** 運動器 (膝関節 1)]

座長：肥田 光正 (大阪河崎リハビリテーション大学)

P-9-1 膝関節脱臼に対する人工膝関節全置換術後の筋力低下に
神経筋電気刺激が奏効した症例

花木 一生 大阪急性期・総合医療センター

P-9-2 人工膝関節全置換術後の膝伸展制限にアプローチし歩行速度が向上した症例

久保 静香 大阪府済生会吹田病院

P-9-3 膝蓋骨粉碎骨折に対しひまわり法を施行された1症例
— 離開が生じた原因に着目して —

今藤 広大 大阪府済生会茨木病院

P-9-4 大腿骨人工骨幹置換術中の脂肪塞栓による多発性脳梗塞を発症し、
介入に難渋した症例

小菅 友里加 大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター リハビリテーション科

ポスター [**P-10** 運動器 (膝関節 2)]

座長：伊能 良紀 (栗田整形外科)

P-10-1 人工膝関節置換術後患者の腫脹と歩行機能の関係および
駆血帯による影響について

三戸部 浩之 社会医療法人 山弘会 上山病院 リハビリテーション科

P-10-2 人工膝関節置換術後における術側下肢荷重率の回復特性

和氣 ひみか 地方独立行政法人 市立吹田市民病院

P-10-3 階段降段動作において右側方への安定性低下を認めた
左人工膝関節全置換術後の一症例

山 拓希 医療法人寿山会 喜馬病院

P-10-4 脛骨近位部骨折を呈し、長期ギブス固定が続いた一症例

奥田 正作 清仁会 水無瀬病院

P-10-5 階段昇降動作が困難であった左膝蓋骨骨折術後患者の一例

若林 菜月 守口生野記念病院

ポスター [**P-11** 運動器 (股関節 1)]

座長：佐藤 久友 (大阪医科大学附属病院)

P-11-1 3軸加速度計を用いた歩行時の股関節パワーの推定について

宮下 敏紀 森ノ宮医療大学大学院 保健医療学研究科

P-11-2 両股関節内転 ROM 制限を呈した二期的 THA 後の
自覚的脚長差に着目した理学療法経験

平岡 真 住友病院 リハビリテーション科

P-11-3 Trendelenburg 徴候が著明な右人工股関節全置換術後患者に対する
荷重量の工夫

柳本 明日香 増原クリニック

P-11-4 THA 術前・後における歩行時立脚後期の股関節伸展制限に関与する因子の検討

古川 啓介 大阪大学医学部附属病院 リハビリテーション部

P-11-5 シャガみこみ中間肢位で左大腿内側近位部に疼痛を認めた
左外傷性股関節脱臼の一症例

井上 直人 医療法人寿山会 法人リハビリテーション部

ポスター [P-12 運動器（股関節2）]

座長：加納 一則（市立吹田市民病）

P-12-1 大腿骨転子部骨折後の大腿外側部痛に対する大腿部圧迫の効果
—滑走性に着目した検証—

河西 謙吾 森ノ宮医療大学大学院 保健医療学研究科

P-12-2 歩行時右前側方への体幹の傾きが見られた右人工股関節全置換術術後の一症例

森本 神楽 守口生野記念病院 リハビリテーション科

P-12-3 大腿骨頸部骨折術後に長期免荷を経た症例：
運動療法と HONDA 歩行アシストを併用した介入

寺田 輝 社会福祉法人 大阪暁明館 大阪暁明館病院 リハビリテーション科

P-12-4 参加意欲が低い患者に対する応用行動分析学を用いた介入の試み

高橋 麻里奈 なみはやリハビリテーション病院

P-12-5 大腿骨転子部骨折症例に対する介入経験
～前方への重心移動に着目して～

松崎 絢子 摂南総合病院

P-12-6 大腿骨転子部骨折後に疼痛が遷延化した症例に対する介入経験

山下 泰輝 摂南総合病院

ポスター [P-13 運動器（足部1）]

座長：村西 壽洋（大阪河崎リハビリテーション大学）

P-13-1 左足関節外果骨折後、超音波画像診断装置を用い損傷部位を可視化した介入

渡邊 拓己 社会福祉法人 大阪暁明館 大阪暁明館病院 リハビリテーション科

P-13-2 エコーガイド下注射により表在感覚鈍麻および疼痛が改善した
足関節骨折術後の一症例

野口 翔平 関西医科大学くずは病院

P-13-3 脛骨神経の移動量の違いによる解剖学的な特徴

井上 花奈 社会医療法人有隣会 東大阪病院 リハビリテーション部

P-13-4 足関節底背屈 ROM 向上が段差昇降の介助量軽減に至った一症例

市村 拓也 介護老人保健施設 のだふじ

ポスター [P-14 運動器(足部2)]

座長：田中 暢一(ベルランド総合病院)

P-14-1 足底腱膜炎に対する機能的足部サポーターの除痛効果の検討 —Pilot study

工藤 慎太郎 森ノ宮医療大学 保健医療学部 理学療法学科

P-14-2 足底腱膜炎に対する拡散型体外衝撃波の治療回数の検討

青木 敦志 医療法人 将奈会 白石クリニック整形外科・内科・消化器内科

P-14-3 脛骨神経と後脛骨動脈の位置関係と足関節背屈角度について

福田 大輔 東大阪病院 リハビリテーション部

P-14-4 タオルギャザーエクササイズが足内在筋に与える影響

角田 晃啓 森ノ宮医療大学 保健医療学部 理学療法学科

ポスター [P-15 運動器(その他1)]

座長：宮田 卓也(箕面市立病院)

P-15-1 棘下筋回転移行術を施行された一症例

山本 哲平 医療法人朋愛会 朋愛病院

P-15-2 訪問リハビリにおいて集中的な下肢筋力強化を実施した一症例

大和田 誠喜 慶生会訪問看護ステーション

P-15-3 新鮮圧迫骨折患者の歩行獲得における下肢荷重率と疼痛の関連について

清水 雄斗 守口生野記念病院 リハビリテーション科

P-15-4 社会心理的要因の評価に視覚的評価を導入して 腰痛の慢性化を防ぐことが出来た症例

伊東 航 医療法人裕仁会 森整形外科

P-15-5 多裂筋筋緊張低下により立ち上がり動作の殿部離床時に 後方への転倒傾向を認めた一症例

加藤 久幸 寝屋川ひかり病院 リハビリテーション科

ポスター [P-16 運動器(その他2)]

座長：杉山 恭二(大阪府立大学)

P-16-1 家事動作の再獲得に向けて立位の耐久性向上を目指した症例

坂口 菜穂 介護老人保健施設つくも

P-16-2 Abdominal bracing exercise が体幹機能へ及ぼす影響について

美甘 隆行 社会医療法人有隣会 東大阪病院

P-16-3 肋間動態の評価法の検討

北川 崇 社会医療法人有隣会 東大阪病院 リハビリテーション部

P-16-4 骨盤と上半身重心を連結するバンド装着が腰部周囲筋の筋活動に与える影響

木下 和昭 四條畷学園大学 リハビリテーション学部

**P-16-5 高頻度転倒患者のバランス機能に対し、
DYJOC のホームエクササイズが有効であった一例**

泉 航希 医療法人藤田会 フジタ病院

ポスター [P-17 内部障害（慢性呼吸器疾患1）]

座長：大浦 啓輔（関西電力病院）

P-17-1 COPD 合併肺癌肺切除術後症例に対して行った包括的リハビリテーション

初瀬 智之 思温病院

**P-17-2 特性が異なる COPD 患者2症例の呼吸リハビリテーションの経過
～身体活動量に着目して～**

大庭 潤平 大阪府結核予防会大阪病院 リハビリテーション科

P-17-3 栄養士と連携した介入が有用であった重度低栄養を伴う気管支拡張症の1症例

仲野 生花 国家公務員共済組合連合会 枚方公済病院 リハビリテーション科

P-17-4 動作種目間で酸素化に差異がみられた間質性肺炎の一症例

福島 惇志 関西医科大学香里病院 リハビリテーション科

P-17-5 気腫合併肺線維症により在宅酸素療法を導入し、動作指導に工夫を要した一例

間遠 有希 社会医療法人愛仁会 高槻病院 技術部 リハビリテーション科

ポスター [P-18 内部障害（慢性呼吸器疾患2）]

座長：木原 一晃（大阪大学医学部附属病院）

**P-18-1 “きちんと”自己管理ができる重症慢性閉塞性肺疾患患者の
身体活動は維持できるのか？**

久保 智史 大阪府結核予防会大阪病院 リハビリテーション科

**P-18-2 超音波診断装置を用いた胸骨舌骨筋の筋厚評価
～ COPD 患者の嚥下機能評価に向けた検討～**

富 謙伸 公益財団法人 田附興風会 医学研究所 北野病院 リハビリテーション科

**P-18-3 外来呼吸リハビリテーションに加えて在宅での IMT を施行した
特発性肺線維症の1例**

杉谷 竜司 近畿大学病院 リハビリテーション部

P-18-4 CPA後に呼吸器管理となりICU-AWを呈したが、早期運動療法を実施し自宅退院となった例

服部 芳和 社会医療法人愛仁会 高槻病院 リハビリテーション科 技術部

ポスター [P-19 内部障害(その他1)]

座長：白石 匡(近畿大学病院)

P-19-1 肺真菌症患者の身体活動量向上に向けた介入

亀甲 健太郎 地方独立行政法人 市立吹田市民病院

P-19-2 右肺全摘除を既往に持つ誤嚥性肺炎患者に対し、
気管走行に沿った排痰法を工夫した症例

池本 郁花 公益財団法人 田附興風会 医学研究所 北野病院 リハビリテーション科

P-19-3 易疲労性の強い慢性腎臓病者に対して病棟 ADL に着目して
包括的に介入した一症例

出口 淳一 森ノ宮病院

P-19-4 急性心筋梗塞後患者のレジスタンストレーニングにおける循環動態の推移

泉谷 健太郎 大阪府済生会吹田病院 リハビリテーション科

ポスター [P-20 内部障害(その他2)]

座長：相田 利雄(大阪はびきの医療センター)

P-20-1 中等度強度の運動によって自宅退院に至った、
長期臥床後の重度保存期腎不全患者の一例

島谷 俊亮 地方独立行政法人 市立吹田市民病院

P-20-2 心肺蘇生後の長期臥床利用者の外出が可能となった一症例

芦田 征丈 社会医療法人愛仁会 介護老人保健施設ひまわり

P-20-3 無菌室管理終了時に病棟内歩行が自立できなかった
同種造血幹細胞移植患者について

竹本 将太 大阪市立大学医学部附属病院 リハビリテーション部

P-20-4 化学療法中、低強度の運動療法の有効性を検討した
急性骨髄性白血病再発患者の一症例

山上 拓 大阪鉄道病院 リハビリテーション科

ポスター [P-21 脊髄障害1]

座長：小坂 健二（河内総合病院）

- P-21-1** 視神経性脊髄炎により対麻痺を呈し、
座位バランスと身体イメージの関連を考察した症例
伊藤 拓海 社会医療法人大道会 森之宮病院
- P-21-2** 不全脊髄損傷者への病態把握に対する一考察
山浦 大輝 千里リハビリテーション病院
- P-21-3** 脊髄不全損傷者に対し受傷後早期から積極的に歩行練習を行い
歩行獲得を目指した一症例
真嶋 洸太 愛仁会リハビリテーション病院 リハ技術部 理学療法科
- P-21-4** 転移性頸髄腫瘍摘出術後に下肢運動失調を呈した一症例
清水 智哉 医療法人徳洲会 野崎徳洲会病院

ポスター [P-22 脊髄障害2]

座長：和田 健吾（関西医科大学総合医療センター）

- P-22-1** 回復期リハビリテーション病棟在棟期間における頸髄損傷者の
SCIM の経時的変化
小笠原 峻 JCHO 星ヶ丘医療センター
- P-22-2** 予後予測と乖離した脊髄梗塞の一症例
江邊 颯馬 社会医療法人さくら会 さくら会病院
- P-22-3** 通所リハビリテーションにて買い物獲得を目指した腰部脊柱管狭窄症の一症例
星尾 篤洋 社会医療法人愛仁会 介護老人保健施設つくも リハビリテーション科
- P-22-4** 装具療法と課題指向型アプローチが歩行獲得に有効であった
脊髄不全損傷の一症例
池田 瑞穂 愛仁会リハビリテーション病院

ポスター [P-23 生活環境支援1]

座長：高濱 祐也（社会福祉法人慶生会）

- P-23-1** プログラムの見直しにより動作練習の恐怖感が軽減した一症例
高尾 昇平 株式会社フルーシオン リハビリ本舗事業部
- P-23-2** 退院後の訪問型サービス C による短期間の介入で、
閉じこもりを予防できた症例
高橋 健嗣 メディケア・リハビリ訪問看護ステーション

P-23-3 在宅復帰に家族指導が重要であった超高齢脳卒中患者

中山 明里紗 愛仁会リハビリテーション病院 リハ技術部 理学療法科

**P-23-4 訪問リハビリテーションからの卒業
～社会参加への支援とその後の見守る目～**

新垣 卓哉 Sieg 訪問看護ステーション

ポスター [P-24 生活環境支援2]

座長：森岡 研介（介護老人保健施設ケアセンター虹）

P-24-1 訪問リハ利用者の転倒発生に影響を与える要因の検討

小林 心也 株式会社フルーシオン リハビリ本舗事業部

**P-24-2 訪問リハビリテーション開始・終了時における介護負担感の
構成要素の変化に対する考察**

知花 朝恒 川口脳神経外科リハビリクリニック

**P-24-3 化学療法中に圧迫骨折を呈し著明に ADL 低下、生活機能改善に難渋した
訪問リハでの一症例**

堀 明日香 医療法人翔寿会 こんどう整形外科クリニック

P-24-4 趣味活動の復帰を目標に訪問リハビリテーションを行った一症例

武久 涼弥 平成豊中訪問看護ステーション

**P-24-5 四つ這い動作が困難であったダウン症候群患児の一例
～運動発達の過程に着目して～**

山崎 志信 関医訪問看護ステーション・香里

ポスター [P-25 教育管理・その他1]

座長：山野 薫（大阪人間科学大学）

P-25-1 ADL 維持向上等体制加算における安定した診療体制構築に向けた取り組み

松岡 森 公益財団法人 田附興風会 医学研究所 北野病院 リハビリテーション科

P-25-2 体験型勉強会の実施にて誤嚥性肺炎の減少が得られた取り組み

井上 聖一 介護老人保健施設ユートピア

P-25-3 大阪府における理学療法士管理者ネットワーク構築の現状と課題

国宗 翔 大阪行岡医療大学

**P-25-4 訪問リハビリテーション事業と理学療法部門運営における
地域課題を踏まえた分析と考察**

穴田 周吾 追手門学院大学大学院 経営・経済研究科 ビジネスコース専攻

P-26-1 退院前患者の身体機能に着目して

横江 美里 牧リハビリテーション病院

P-26-2 臨床現場における腰痛予防対策の現状と課題
～症例を通した評価と検討の一例～

岡田 紗也花 JCHO 星ヶ丘医療センター

P-26-3 障がい者水泳における医療従事者の関わりについてのアンケート調査

高山 弘幹 行岡病院 リハビリテーション科

P-26-4 BMX を用いたバランストレーニングが動的バランスおよび
行動体力要素におよぼす影響

神里 巖 大阪行岡医療大学 医療学部

卒業研究演題（ポスター）

ポスター 〔 PG-27 卒業研究演題 〕

座長：廣瀬 浩昭（大阪人間科学大学）

- PG-27-1** 運動教室終了後の DVD 活用による自主活動継続効果の検証
伊藤 里紗 大阪河崎リハビリテーション大学
- PG-27-2** 変形性膝関節症に患者・理学療法士はそれぞれどのように向き合っているのか：質的研究
池田 茜 さくら会病院
- PG-27-3** 走行中のアキレス腱および周囲組織の動態
住田 温子 森ノ宮医療大学 保健医療学部 理学療法学科
- PG-27-4** 男女年代別の足部形状の違いについて
米永 涼太郎 大阪河崎リハビリテーション大学 リハビリテーション学部
- PG-27-5** 視覚情報の付与条件を変化させた運動練習が運動イメージの明瞭性に与える影響
鶴田 菜月 関西医療大学 保健医療学部 理学療法学科
- PG-27-6** 下腿三頭筋の筋疲労が重心動揺に及ぼす影響
～歩行時の単脚支持期の安定性に着目して～
鎌田 優雅 大阪医療福祉専門学校 理学療法士学科
- PG-27-7** プロサッカー選手の膝関節複合損傷後の一症例
―競技復帰期のプログラム再検討―
国本 佳炫 大阪医療福祉専門学校 理学療法士学科

査読者推薦演題（ポスター）

ポスター [PR1-28 査読者推薦演題1]

座長：中前 喬也（北大阪ほうせんか病院）

- PR1-28-1** 脳梗塞後に生じた軽度 Lateropulsion に対する Gaze Stability Exercise の試み
工藤 和輝 大阪医科大学附属病院
- PR1-28-2** 脳卒中重度片麻痺患者に対する急性期からのウェルウォーク歩行練習
岡村 謙佑 社会医療法人さくら会 さくら会病院
- PR1-28-3** 小脳出血性梗塞により歩行困難となった症例の治療経験と介入に関する考察
武部 優希 医療法人社団和風会 千里リハビリテーション病院
- PR1-28-4** 歩行機能が大きく改善した学童期の脳性麻痺がある子どもの一例
～ GMFM 評価から考える～
山根 果鈴 大阪発達総合療育センター
- PR1-28-5** 脛骨顆間隆起骨折後に膝関節前面痛が生じた一症例
超音波画像診断装置による評価と治療
木下 敬詩 近畿大学病院 リハビリテーション部
- PR1-28-6** 全人工膝関節置換術後患者に後進歩行練習とカーフレイズの
即時効果を比較した1症例
小池 一成 医療法人錦秀会 阪和第二泉北病院
- PR1-28-7** 可動域制限に難渋したが結髪動作を獲得できた腱板断裂保存治療一症例
従野 明日香 大阪府済生会吹田病院

ポスター [PR2-29 査読者推薦演題2]

座長：松木 明好（四条畷学園大学）

- PR2-29-1** 上腕骨外側上顆炎に対する拡散型体外衝撃波治療の除痛効果の検討
山崎 啓嗣 医療法人将奈会 白石クリニック 整形外科・内科・消化器内科
- PR2-29-2** 下行膝動脈における血流速度測定信頼性の検討
福本 祐介 社会福祉法人 大阪暁明館 大阪暁明館病院 リハビリテーション科
- PR2-29-3** 膝蓋下脂肪体の硬度計測における信頼性の検討
片山 尚哉 社会福祉法人 大阪暁明館 大阪暁明館病院 リハビリテーション科
- PR2-29-4** 体幹前傾・膝関節屈曲角度変化による下肢筋群の筋活動変化
—MMT3での正規化による検討—
村岡 秀映 関西医療大学 保健医療学研究科

PR3-30-1 当院回復期リハビリテーション病棟での脊髄損傷者の改良 Frankel 分類の調査

宮垣 さやか JCHO 星ヶ丘医療センター

PR3-30-2 台支持立位による多裂筋トレーニング法の検討

英 勝 杏訪問看護ステーション

PR3-30-3 人工膝関節全置換術後に腓腹筋内側頭と半膜様筋の滑走性が
歩行速度に及ぼす影響

瀬尾 真矢 医療法人大植会 葛城病院 リハビリテーション部 理学療法課

PR3-30-4 膝前十字靱帯再建術前後における膝伸展屈曲筋力の経時的変化

瀬口 貴一 大阪市立大学医学部附属病院 リハビリテーション部

PR3-30-5 慢性閉塞性肺疾患患者における抑うつの有無が身体活動強度に及ぼす
差異の検証

小谷 将太 大阪府結核予防会大阪病院 リハビリテーション科

第32回大阪府理学療法学会

抄 録 集

特 別 講 演

教 育 講 演

シンポジウム1

- 1) 急性期
- 2) 回復期
- 3) 生活期

シンポジウム2

災害時リハビリテーション

症例報告(口述)

セッション1 急性期	O-1-1～O-1-4
セッション2 回復期(運動器)	O-2-1～O-2-4
セッション3 回復期(脳損傷)	O-3-1～O-3-4
セッション4 生活期	O-4-1～O-4-4

一般演題(ポスター) P-1-1～P-26-4

卒業研究演題(ポスター) PG-27-1～PG-27-7

査読者推薦演題(ポスター) PR1-28-1～PR3-30-5

細胞の作られ方とその利用

仲野 徹

大阪大学大学院 医学系研究科・病理学 教授
生命機能研究科・時空生物学 教授

我々のからだは、約37兆個、250～300種類の細胞によってできている。それらの細胞はたった一個の受精卵が発生・分化することによって作られたものである。

細胞や組織、臓器はいくつかの方法で分類することができる。発生学的には、消化管や肝臓・膵臓といった内胚葉、筋肉や血液細胞のような中胚葉、神経と皮膚の外胚葉と、三つの胚葉に分類できる。また、組織学的に見ると、上皮組織、筋組織、神経組織、結合組織の四つがある。

もうひとつ、細胞の増殖能によっても三つに分けることができる。ひとつは、血液細胞や皮膚表皮、消化管粘膜上皮のように、常に産生され続ける臓器。次は、肝臓のように、通常の状態では安定であるが、肝切除のような場合には再生が可能な臓器。そして、神経や筋肉のように一旦傷つけられるとほぼ再生できない臓器である。このうちのひとつめ、血液細胞や皮膚の表皮には、幹細胞とよばれる細胞が存在し、その細胞が増殖、分化することによって、必要な細胞を常に供給し続けるのである。

幹細胞とは、自己複製能と分化能をあわせもった未分化な細胞と定義される細胞である。幹細胞には、大きく二つの種類があって、ひとつは、造血幹細胞、皮膚表皮幹細胞、毛の幹細胞、消化管上皮の幹細胞といった、我々の体の中に存在する幹細胞で、組織幹細胞と呼ばれる。もうひとつは多能性幹細胞で、初期胚から樹立された胚性幹細胞（ES細胞）やiPS細胞（人工多能性幹細胞）のように、ほとんどすべての種類の細胞に分化することができるという性質を持っている。

このような幹細胞を利用した医学が再生医学である。具体的には、幹細胞あるいはそれに準じる細胞を体外で増殖させ、患者に移植することにより治療しようという方法である。組織幹細胞の場合は、容易ではないが、体外で増殖させて移植すればよい。しかし、多能性幹細胞の場合は、そのまま移植するとランダムな発生・分化が生じ、三胚葉すべてを含む奇形腫という腫瘍を作ってしまう。なので、一旦、望みの細胞へと試験管内で分化誘導することが必要である。

今回の講演では、細胞の分化とは何かから始め、幹細胞およびそれを利用した医学、そして、再生医学の将来と限界についてお話する予定にしています。



仲野 徹

略 歴

1981年 大阪大学医学部医学科 卒業、内科医として勤務
1984年 大阪大学医学部・バイオメディカルセンター腫瘍病理部門 助手
1989年 ヨーロッパ分子生物学研究所 (EMBL) Visiting Scientist
1990年 京都大学医学部・医化学第一教室 (本庶佑教授) 講師
1995年 大阪大学微生物病研究所・遺伝子動態研究部門 教授
2004年 大阪大学大学院医学系研究科・病理学 教授
大阪大学大学院生命機能研究科・時空生物学 教授
2012年 日本医師会医学賞 受賞
2014年4月～2016年3月 大阪大学大学院生命機能研究科 研究科長

執 筆

エビジェネティクス：岩波新書 (2014年)
こわいもの知らずの病理学講義：晶文社 (2017年)
(あまり) 病気をしない暮らし：晶文社 (2018年)
仲野教授のそろそろ大阪の話をしよう：ちいさいミシマ社 (2019年)
生命科学者たちのむこうみずな日常と華麗なる研究：河出文庫 (2019年)
からだと病気のしくみ講義：NHK 出版 (2019年)

O-1-1 多職種介入により肺移植登録に至った特発性胸膜肺実質線維弾性症の1症例

○水澤 裕貴¹⁾、東本 有司²⁾、白石 匡¹⁾、藤田 修平¹⁾、杉谷 竜司¹⁾、木村 保¹⁾、福田 寛二²⁾

1) 近畿大学病院 リハビリテーション部、2) 近畿大学医学部 リハビリテーション医学

【症例紹介】診断名：細菌性肺炎、合併症：特発性胸膜肺実質線維弾性症、年齢：30歳代、性別：男性、mMRC：4、BMI：17.4、喫煙歴：20本/日×12年、数年前より禁煙、NRADL：25点、運動FIM：54点と歩行は自立していた。努力性肺活量(FVC)：0.92L(%FVC：21%)、1秒量(FEV1)：0.92L(%FEV1：24.5%)、1秒率：97.9%。現病歴：15歳時にびまん性大細胞型B細胞リンパ腫に対し自家移植後寛解、2年前に特発性胸膜肺実質線維弾性症と診断され当院へ通院していた。当院入院数日前よりmMRC4度の呼吸困難感と安静時低酸素状態となり、緊急入院となった。炎症反応が寛解した第14病日に理学療法開始となった。ステロイドパルス療法後、第55病日に左右の気胸を併発し呼吸状態悪化、第60病日にP/F比：119.9、PaCO2：132.6、Ph：7.06と呼吸性アシドーシスを呈し、人工呼吸器管理となった。第79病日に気管切開。その後、ベッド上臥床状態となり、FIM運動スコア14/91点とADLの低下を認めた。第123病日に胃瘻増設。年齢や疾患特性を考慮し肺移植登録を目指して座位・移乗の自立獲得が必要な状態であった。【評価とリーズニング】第15・16病日の初期評価では、6分間歩行距離：210m、呼吸数増加と呼吸困難感増強により試験継続困難であった。フィジカルアセスメントでは、胸部の可動性が低下、安静時より呼吸補助筋の筋活動の亢進、わずかな体動で頻呼吸となっていた。第60病日の人工呼吸器装着後は、SIMV設定、実測1回換気量300ml、呼吸数40回、分時換気量1.2Lであった。人工呼吸器とのファイティングから呼吸困難を引き起こし、常に不安の訴えが

強い状態であった。

【介入と結果】第196病日に呼吸サポートチーム(RST)介入開始となった。RSTでは、臨床工学技士による呼吸器設定の提案や歯科衛生士による口腔内ケア、看護師によるセルフケアの確立や経腸栄養の時間調整、薬剤師による鎮静薬の調整や不安軽減に向けた薬剤の提案、栄養士による必要栄養量の計算と経腸栄養剤の検討、理学療法士は離床の促進に取り組んだ。RST介入後、運動時の呼吸数増加と呼吸困難感の増強が抑制され、座位や立位の練習が可能となった。第212病日には、患者自身で人工呼吸器を押しながら病棟内を歩行することが可能となった。座位や移乗は自立レベルであった。FIM運動スコアは、14/91点から36/91点へ改善した。その後、第301病日に肺移植登録完了し、第379病日に他院転院となった。

【結論】特発性胸膜肺実質線維弾性症は、上葉優位性の間質性肺炎と上位胸膜の線維化の肥厚を合併する予後不良の疾患である。病態特性として肺容量の低下や運動時の低酸素、労作時呼吸困難感の増強、低栄養、不安抑鬱を呈して、低活動や廃用状態となる。このような難治症例に対し、多職種で関わることでADLが改善する可能性が示唆された。

【倫理的配慮】ヘルシンキ宣言に則り、症例報告に関して患者と家族に十分な説明を行い、同意を得た。

O-1-2 間質性肺炎と骨髄異形成症候群を併発した一症例

○三好 祐之、青木 利彦、高森 宣行、中村 慎也、秋野 賢一

一般財団法人 住友病院 リハビリテーション科

【症例紹介】骨髄異形成症候群に対する理学療法介入の報告は散見されるが、他疾患併発例についての介入報告は少ない。今回、間質性肺炎(以下IP)と骨髄異形成症候群(以下MDS)を併発した症例に対し、介入した結果、ADL改善に至ったので報告する。70歳代男性、他院でIP、骨髄低形成と診断。精査加療目的に同月当院転院、MDSと診断。呼吸不全に対しNasal High Flow(以下NHF)およびNPPV管理、steroid pulse療法、MDSに対しRBC輸血・アザシチジン投薬開始。入院5日後より理学療法開始。入院前ADLは屋内外独歩自立であった。

【評価とリーズニング】呼吸管理は日中NHF FiO2 40% 50L夜間NPPV CPAPmode FiO2 40%で安静時SpO2 92-93%、bed上の運動でSpO2 80%、呼吸回数(以下RR)30回、労作で著明なdesaturation、RR増加を認めた。筋力はMMT(右/左)両下肢抗重力筋群4/4体幹筋3+、ADLは介助下寝返り可能。血液データRBC2万/μL、Hgb7.7g/dL、PLT4万/μL、CRP22.45mg/dL、血液ガス検査PaO2 84.2mmHg、PaCO2 32.1mmHg、P/Fratio168、A-aDO2 239.3mmHg。初期評価でIPによる低酸素血症、MDSによる貧血、易出血傾向にあると判断し、介入はconditioningより開始した。離床時期は、IPに対しdesaturation、胸部画像所見および血液データから増悪傾向にないこと、MDSに対し貧血や易出血性の進行がないことを確認し、主治医と協議して決定した。

【介入内容と結果】運動療法・ADL練習は、呼吸リハビリテーションマニュアル、がんのリハビリテーション中止基準に準じて実施した。

離床開始までは呼吸筋リラクゼーションや呼吸介助、positioningを中心に介入。PLT3~4万/μLであり、ストレッチングや抵抗負荷運動は控えて実施した。第13病日NPPV離脱、NHF管理、第17病日NHF離脱、Nasal 5L管理となった。第19病日離床開始、運動負荷量の指標は、血圧・心拍数、自覚症状の有無に加えSpO2>90%、RR30回が保てる範囲とした。第20病日安静時room air、労作時Nasal 2L管理、血液データでCRP低下、Hgb7.7~8g/dL、PLT5万/μLへ上昇を認め、第25病日より室内歩行練習開始。第39病日room air管理となったが、第40病日PLT2万/μL台へ低下、主治医より室内歩行練習は継続許可、運動負荷量漸減。第47病日以降、血液データで貧血や易出血傾向がないことを確認し、運動負荷量漸増。第68病日発熱性好中球減少症発症、Hgb・PLT低下進行も認め、運動負荷量再度漸減、歩行練習はvital signに留意し継続。以降、血液データ上の改善を確認、筋力維持増強練習漸増、歩行練習拡大。第74病日病棟内独歩、第96病日院内独歩、第126病日階段昇降獲得し、第130病日自宅退院となった。

【結論】IP、MDSを併発した症例に対し、血液データ・vital signに留意し、各疾患の病態に応じた理学療法介入は、合併症予防・離床獲得、ADL改善に効果的であった。

【倫理的配慮、説明と同意】ヘルシンキ宣言を順守し、本人及びご家族へ本発表の趣旨を文書にて説明し同意を得た。

協賛企業一覧

(広告掲載順)

- 川村義肢 株式会社
- 酒井医療 株式会社
- 株式会社 gene
- ミナト医科学 株式会社
- オージー技研 株式会社
- 株式会社 プロアシスト
- 株式会社 神陵文庫

第32回大阪府理学療法学会 運営組織・委員一覧

大 会 長 中川 法一（増原クリニック、株式会社フルーシオン）

副 大 会 長 射場 一寛（清恵会第二医療専門学院）

準 備 委 員 長 都留 貴志（市立吹田市民病院）

事 務 局

局 長 藤原 正史（かとう整形在宅クリニック）

次 長 森 輝（近畿リハビリテーション学院）

財 務 部 長 岡野 雅俊（かとう整形在宅クリニック）

総 務 部 長 遠藤 佳幸（介護老人保健施設エスぺラル摂津）

財 務 部 員	尾田 怜太（かとう整形在宅クリニック）	総 務 部 員	重友 悠佑（摂津医誠会病院）
	木曾 尾徹（かとう整形在宅クリニック）		山本 加奈美（エスぺラル摂津）
	久家 貴之（かとう整形在宅クリニック）		
	蓮子 陽平（かとう整形在宅クリニック）		

広 報 渉 外 局

局 長 松田 淳子（大阪行岡医療大学）

次 長 冷水 健太郎（介護老人保健施設 若山荘）

広報・記録部長 山野 宏章（大阪行岡医療大学）

学 術 誌 部 長 横森 正喜（清仁会水無瀬病院）

広報記録部員	米元 佑太（東大阪山路病院）	金 起徹（八尾はあとふる病院）
	久司 裕貴（藤井会リハビリテーション病院）	

企 画 学 術 局

局 長 橋田 剛一（大阪大学医学部附属病院）

次 長 増田 知子（千里リハビリテーション病院）

企 画 部 長 西川 明子（株式会社フルーシオン）

学 術 部 長 畑原 誠（箕面市立病院）

運 営 局

局 長 山木 健司(高槻病院)

次 長 丹羽 徹(市立池田病院)

会 場 部 長 上原 光司(愛仁会リハビリテーション病院)

会 場 副 部 長 野口 周寛(巽病院)

会 場 部 員

中川 泰慈(市立吹田市民病院)

大川 知之(市立豊中病院)

樋口 慧(相原病院)

上原 光司(愛仁会リハビリテーション病院)

上井 綾菜(第一東和会病院)

橋本 裕之(みどりヶ丘病院)

米田 一生(北大阪ほうせんか病院)

三馬 孝明(摂津特養ひかり)

松政 圭一(水無瀬病院)

上井 綾菜(第一東和会病院)

今井 宏幸(第一東和会病院)

十河 晃太郎(第一東和会病院)

呉竹 麻美子(第二東和会病院)

間遠 有希(高槻病院)

服部 芳和(高槻病院)

高橋 直恵(介護老人保健施設 しんあい)

山下 真人(愛仁会リハビリテーション病院)

大崎 康寛(みどりヶ丘病院)

杉森 仁志(みどりヶ丘病院)

黄瀬 智也(みどりヶ丘病院)

島田 梓(みどりヶ丘病院)

恩地 亮汰(みどりヶ丘病院)

佐川 裕哉(愛仁会リハビリテーション病院)

真嶋 洸太(愛仁会リハビリテーション病院)

外崎 翔太(愛仁会リハビリテーション病院)

服部 麻実(愛仁会リハビリテーション病院)

浦上 英之(大阪医科大学付属病院)

勝田 直也(大阪医科大学付属病院)

金光 諒大(三島南病院病院)

山内 健(うえだ下田部病院)

新地 史章(高槻赤十字病院)

米田 一生(北大阪ほうせんか病院)

落合 伸治(北大阪ほうせんか病院)

岡田 唯(北大阪ほうせんか病院)

石口 真亜子(北大阪ほうせんか病院)

井上 彩葉(友誼会総合病院)

山本 将太(友誼会総合病院)

川瀬 和大(大阪府済生会茨木病院)

荒瀬 友岳(大阪府済生会茨木病院)

小村 啓輔(大阪府済生会茨木病院)

大平 明裕(千里中央病院)

早川 万紀子(関西リハビリテーション病院)

中嶋 紗恵(関西メディカル病院)

政所 豊(坂本病院)

中西 彩香(市立豊中病院)

高田 裕斗(国立病院機構大阪刀根山医療センター)

遠藤 紘一(市立豊中病院)

上村 亮介(市立吹田市民病院)

亀甲 健太朗(市立吹田市民病院)

中村 凌大(市立吹田市民病院)

南谷 壽文(市立吹田市民病院)

北田 凱土(市立吹田市民病院)

鋤田 瑛(市立吹田市民病院)

和氣 ひみか(市立吹田市民病院)

猪原 翔太(株式会社フルーション)

村田 一斗(株式会社フルーション)

島谷 俊亮(市立吹田市民病院)

庄司 修三(みのおりハビリ訪問看護 ST)

久嶋 亘燦(巽今宮病院)

篠川 健治(箕面市立介護老人保健施設)

宮田 卓也(箕面市立病院)

野村 泰伸(巽今宮病院)

齊藤 友介(彩都リハビリテーション病院)

吉本 夢厳(ガラシア病院)

吉村 直也(千里リハビリテーション病院)

土岐 晃三(箕面市役所)

松政 圭一（介護老人保健施設若山荘）
中山 雄揮（介護老人保健施設若山荘）
丸吉 康太（清仁会 水無瀬病院）
富鶴 勇輝（やわらリハビリ訪問看護ステーション）
山中 大樹（奥井医院）
山崎 貴峰（やわらリハビリ訪問看護）
五百旗頭 祐介（reborn）
山下 幸裕（reborn）
横山 遥（市立池田病院）
渡辺 彩（市立池田病院）
田上 健太郎（巽今宮病院）
高倉 毬依（巽今宮病院）
久嶋 亘燦（巽今宮病院）
佐々木 奈緒（巽今宮病院）

香美 亜衣（巽今宮病院）
藤堂 恵美子（巽病院介護老人保健施設）
前川 世里奈（巽病院介護老人保健施設）
松下 慶紀（巽病院介護老人保健施設）
上田 顕丈（巽病院介護老人保健施設）
三輪 敏之（巽病院介護老人保健施設）
中村 真（巽病院介護老人保健施設）
岡川 修士（巽病院）
横山 真梨子（巽病院）
片岡 加陽子（巽病院）
松井 睦（巽病院）
脇田 英樹（巽病院訪問看護ステーション）
平生 雄（巽病院訪問看護ステーション）
野村 佳美（巽病院訪問看護ステーション）

企業展示部長 面田 真也（市立池田病院）

企業展示部員 仲 健太（市立池田病院）

佐々木 大地（市立池田病院）

情報技術部長 辻畑 智広（阪南病院）

監査委員

奥 壽郎（人間科学大学）
中前 喬也（北大阪ほうせんか病院）
岡本 浩明（相原病院）
大垣 昌之（愛仁会リハビリテーション病院）

中田 裕士（千里中央病院）
松山 博文（市立池田病院）
深谷 淳（水無瀬病院）

大阪府理学療法学会誌 第32号

発行日：令和2年9月発行

発行：一般社団法人 大阪府理学療法士会生涯学習センター
〒540-0028 大阪市中央区常盤町1-4-12
常磐セントラルビル301号
TEL：06-6942-7233 FAX：06-6942-7211
E-mail：gakkai@pt-osk.or.jp

編集・印刷：株式会社セカンド
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025

